



今冬は-10℃以下の日を 17 回記録しました。（参考：前年度 25 回、過去最多は平成 18 年の 39 回）3 月上旬も平年より高い気温帯が続いており、このまま経過すれば初期生育は平年よりやや早まると予想されます。ただし、今後の気温上昇や降水量により大きく前後しますので、生育状況をよく確認し適期作業と防除に努めてください。尚、休眠期防除のポイントは下記をお読みください。

■ 気象の経過（観測地点：長丘）

平均 気温(℃)	2 月		
	上旬	中旬	下旬
本年	-2.2	-0.7	2.5
平年	-1.9	-1.5	-0.5
平年差	-0.3	+0.8	+3.0

りんご生態の観察法

- 発芽期：頂芽の先が破れ青みが現れたものを、1 樹で 2~3 認められたとき。
- 展葉期：1 樹の中で完全に開いた葉が 2~3 枚見られたとき。
- 開花期：1 樹で 1~2 花咲いたとき。
- 満開期：樹全体で頂芽花の 70~80%が開花したとき。
- 落花期：頂芽花の 70~80%が落花したとき。

## りんご

- ◆ 石灰硫黄合剤とベフラン液剤の 2 体系を記載しています。下記の内容を良く読み、いずれかを選択してください。
- ◆ 休眠期の薬剤散布は、腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類の密度を減らすうえで有効です。この防除を徹底することで生育期の防除効果が上がります。昨年、ハダニ類の被害が多かった園では散布量は多めに設定してください。

品 種	場 所	平年	H24	H25	H26	H27
ふ じ	平 岡	4/4	4/12	4/1	4/3	4/1 頃
エゾノコリンゴ	(果樹試)	2/14	2/28	2/14	2/20	2/8

**【発芽前の散布】**

○石灰硫黄合剤体系

散布時期：発芽前（3 月中下旬）

散布薬剤	水	8 8 リットル
	スプレーオイル	2 リットル *②
	石灰硫黄合剤	1 0 リットル

対象病虫害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類  
10 アール当り散布量 300 リットル

**【注意事項】**

- ① 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。
- ② 調合にあたっては、スプレーオイルを先に水に溶かし、石灰硫黄合剤を後から加えて良く攪拌しながら散布する。
- ③ 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに極力かからないようにする。

**【発芽前の散布】**

○ベフラン液剤体系

散布時期：発芽前～発芽後 7 日以内

散布薬剤	水	9 8 リットル
	展着剤	1 0 ml
	ベフラン液剤 25	1 0 0 ml *②
	スプレーオイル	2 リットル

対象病虫害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類  
10 アール当り散布量 300 リットル

**【注意事項】**

- ① 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。
- ② 調合にあたっては、ベフラン液剤を先に水に溶かし、スプレーオイルを後から加えて、よく攪拌しながら散布する。

**【3 月中下旬の重点管理作業】**

- ① 園内の SS 走行路の確保  
北部地帯では残雪が多く剪定作業が遅れています。防除に支障がないようとりあえず SS 走行路の剪定枝を片付けておきましょう。
- ② 腐らん病抑制処理  
早期発見・早期治療が重要です。春先になると罹病部がわかり易くなります。園地を巡回し腐らん病斑を見つけ次第、早めに粗皮削り等の抑制処理を実施してください。病斑を放置しておく、梅雨の期間に蔓延します。尚、抑制処理方法等で不明な点は園芸技術課担当までお問い合わせください。
- ③ 粗皮削り（ハダニ類・輪紋病対策）
  - リンゴハダニ、カイガラムシ類が粗皮下等に越冬しています。粗皮けずりを行い薬剤が直接かかるようにしてください。また、毎年カイガラムシ類の発生が多い園では、発芽前の防除の前に金ブラシ等で削り落とす作業を積極的に進めてください。
  - 近年発生の多い輪紋病（いぼ皮病）の罹病樹（枝）は、必ず粗皮ケズリを行なってください。まず、輪紋病の発生源を減らすことが撲滅に向けた第一歩です！

**（注目）もも・ネクタリンの防除は裏面に記載してあります。ご覧ください。**

# もも・ネクタリン

◆ 石灰硫黄合剤体系とトレノックスフロアブル体系の2体系を記載しています。下記の内容をよく読み、いずれかを選択してください。

(参考：過去3カ年の発芽日、平岡地区)

白鳳	平年	H24	H25	H26	H27
発芽日	4/2	4/8	3/28	4/2	3/30頃



**【発芽前の散布】**

**石灰硫黄合剤 体系**

散布日	月	日
散布量		ℓ

散布時期：発芽前(3月中下旬～)

散布薬剤

水	90ℓ
展着剤	10ml
石灰硫黄合剤	10ℓ

対象病虫害：縮葉病・カイガラムシ類・ハダニ類  
散布量：10アール当たり 300ℓ

**【注意事項】**

- ① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル50倍を合剤散布の5～6日前に単用散布する。
- ② 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに極力かからないようにする。

**【発芽前の散布】**

**トレノックスフロアブル 体系**

散布日	月	日
散布量		ℓ

散布時期：発芽前(3月中下旬～)

散布薬剤

水	98ℓ
展着剤	10ml
トレノックスフロアブル (スプレーオイル)	200ml (2ℓ)

\*注意事項① 参照

対象病虫害：縮葉病・せん孔細菌病・(カイガラムシ類・ハダニ類)  
散布量：10アール当たり 300ℓ

**【注意事項】**

- ① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル50倍を加用散布する。
- ② トレノックスフロアブルに代えて、キンセツ水和剤80の1000倍(開花前まで、5回)でもよい。
- ③ 調合にあたっては、トレノックスフロアブルを先に溶かし、スプレーオイルを後から加えて、よく攪拌する。

**【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】**

- ① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル散布の前に被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を積極的に実施してください。
- ② せん孔細菌病発生園は、開花前にキンセツ水和剤80の1000倍(開花直前まで、5回)を特別散布する。  
\*枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ③ コスカシバの発生園では被害部の樹脂を取り除き、ももはガットサイドS1.5倍液(30日前、1回)を樹幹部に塗布する。また、ネクタリンはガットキラー乳剤100倍(休眠期)又はトラサイドA乳剤200倍(幼虫食入期)を樹幹部・主枝に散布する。\*使用回数は併せて3回までとする。

## 【3月下旬～4月上旬の重点管理作業】

摘蕾の実施・・・大玉生産のための摘蕾を。(結実の良好な白鳳・なつっこ・あかつき等は積極的に摘蕾を実施しましょう)

### 着果管理の流れ

- ① 花粉のある品種の場合：摘蕾・摘花 ⇒ 荒摘果 ⇒ 仕上げ摘果 ⇒ 被袋時の見直し
- ② 花粉のない品種の場合：荒摘果 ⇒ 仕上げ摘果 ⇒ 被袋時の見直し
  - 花粉のない品種でも場所により結実が良好な場合は①に準ずる
  - 花粉のある品種は結実がほぼ確実である。早く摘果をすすめ初期肥大促進とともに樹勢を保つ。
  - 赤宝・白鳳系・あかつき・なつっこ・白根白桃などは摘蕾する。
  - 川中島白桃は、受粉樹など着果条件から摘蕾を軽くするか、しないか決定する。
  - ファンタジア・秀峰などのネクタリンは、花芽が少なく果実が不揃いとなりがちなので摘蕾は控える。

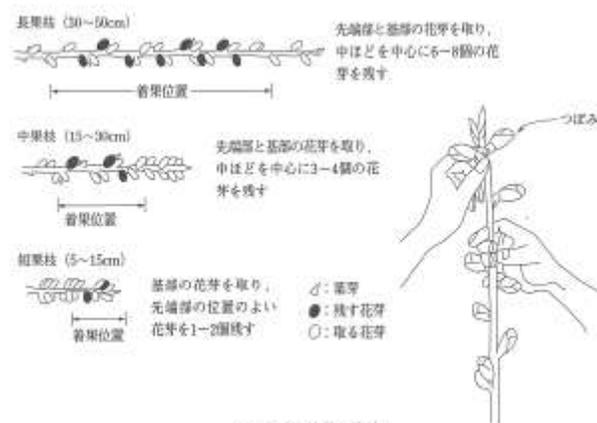


図1-10 摘蕾の方法

### 摘蕾の方法

- ① 主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。
- ② 上向きの蕾を除く。下向き・横向きは残す。
- ③ さらに長果枝(30～50cm)および中果枝(15～30cm)の基部と先端部は除く。短果枝(5～15cm)は基部を除く。
- ④ 遅れると葉芽を欠くことになるので、葉芽が伸び出す前に実施する。